

青丘文庫研究会 月報

No.287
2017年2月6日

青丘文庫研究会 〒657-0064 神戸市灘区山田町 3-1-1 (公財)神戸学生青年センター内
TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878 <http://ksyc.jp/sb/> e-mail hida@ksyc.jp
①在日朝鮮人運動史研究会関西支部 (代表・飛田雄一)
②朝鮮近現代史研究会 (代表・水野直樹)
郵便振替<00970-0-68837 青丘文庫月報>年間購読料 3000 円
※ 他に、青丘文庫に寄付する図書を購入費として 2000 円/年をお願いします。

<巻頭エッセイ>

南北をつなぐ作家、朴泰遠(パクテウォン)

池 貞姫

年を追うごとに、小説の類はあまり読まなくなっていた。多忙のせいだと言い訳したいところだが、実のところ、小説に描かれているのは所詮、絵空事にしかすぎないという思いが強くなったからだろう。そんな私が、あるきっかけで、一人の朝鮮人作家の作品と出会い、そこに描かれている時代や空間にリアリティーを感じるようになった。その作家の名は、朴泰遠(1909—1986)という。

ここでは、日本語翻訳もある、京城(旧ソウル)を舞台とした「小説家仇甫氏の一日」(1934)を紹介しよう。小説は、独身の、しがた小説家が午後12時から夜中の2時まで京城の都心を練り歩く話である(ちなみに、「仇甫(クボ)」は朴泰遠の号)。小説を読み進めていくにしたがい、タイムスリップし、京城の街並みをあたかも仇甫の後を追って、自分も歩いているような錯覚を覚える。清溪川、和信百貨店、京城駅、南大門通り、エンジェル・カフェ、鐘路交差点などなど。その空間で、仇甫は周囲の様々な人々とやりとりを重ね、多様な人物・事物をこと細かに観察する(朴泰遠は実際、「考現学」の手法を取り入れているとされている)。それらの描写記録を通して、当時の朝鮮人青年が背負った諸々の苦悩や希望、京城という植民地都市に刻印された光と影、ひいては朝鮮の憂うべき状況までもがリアルに伝わってくる。様々な場面の描写が、私にとっては印象深かったのだが(特に、京城駅の場面描写が優れている)、鐘路交差点を舞台とした最終章「午前二時の」の描写は、朴泰遠自身の宣言のように響いてくる。

「いい小説を書きたまえ」

友は心からそう言い、そして二人は別れた。ほんとうにいい小説を書くぞ。当番の巡査が侮蔑の目で彼を睨みつけようと、彼はほとんどそれに不快感を覚えることもなく、ただその思いに小さな一つの幸せを抱く。(山田佳子訳より引用)

朴泰遠は、小説の表現において様々な技巧を試みたことから、スタイリストとかモダニズム作家と称されたりもしたが、「小説家仇甫氏の一日」は、1930年代の京城やそこで生きる生身の人々を、現

代を生きる我々の眼前に彷彿とさせてくれることに、最たる価値があるのだと思われる。「場所」とは？「近代」とは？「民族的アイデンティティ」とは？「人（家族、恋人、友人、権力者）との関係」とは？「生き甲斐」「仕事」とは？「文学」の果たしうる役割とは？「小説家仇甫氏の一日」は当時の京城の姿を克明に描きつつ、様々な切り口から人間が生きる意味を現代に生きる私たちに投げかけてくるようである。

生粋のソウルっ子だった朴泰遠は、朝鮮戦争のさなか、家族を残して北朝鮮に渡った。朴泰遠は、詩・小説・童話・随筆・評論・翻訳等多彩なジャンルの作品を数多く著わしたが、越北後の晩年に失明と半身不随を患いながら、口述筆記により、東学農民戦争（1894-1895）をテーマとした大河歴史小説『甲午農民戦争』を完成させ、北朝鮮で作家として不動の地位を確立した。また、反共を国是とした韓国では、朴泰遠の作品は長らくタブー視されていたが、民主化の追い風をうけて、ようやく1988年に解禁され、現在は越北後の作品も併せて広く読まれるようになり、研究も盛んに行われている。朴泰遠は、分断した朝鮮南北をつなぐ貴重な存在でもあるのだ。「ほんとうにいい小説を書くぞ」と書いていた通り、多くの力作を残し、小説家としての人生を最後まで貫いた。1986年に平壤の地で亡くなり、今は愛国烈士陵の墓に眠っている。（朴泰遠について詳しいことは、牧瀬暁子翻訳の『川辺の風景』の解説を参照されたい。この小説も、1930年代の朝鮮の庶民の生き様をありありと描いており、川の流れのような朝鮮語原文の語りにすっかり魅了されてしまった。牧瀬氏の日本語翻訳も秀逸であり、詳しい注釈も当時の文化や社会を理解する上で大いに助けになる。）

第378回朝鮮近現代史研究会 2017年1月8日

戦前、兵庫県の朝鮮人団体と児童教育

堀内 稔

戦前、兵庫県には左派から融和系にいたるまで数多くの朝鮮人団体が存在した。これらの団体が、朝鮮人子弟教育に対してどのようなアプローチを行ったのか報告した。団体の性格、たとえば左翼とか融和などの分類で接近することも考えられるが、団体の性格があいまいなものがあつたり、同じ性格の団体であっても年代によってアプローチの仕方が異なることが考えられるため、神戸市、尼崎市など地域別にみることにした。

朝鮮人児童の教育を義務教育とみなす文部省普通学務局の見解がだされたのは1930年10月。もちろんそれ以前にも、日本の小学校に朝鮮人児童が入学した例は数多くあるが、その受け入れは各小学校の裁量にまかされていたものと推測される。1930年10月以降は、寄留届を提出した朝鮮人には、入学適齢期の児童に対し役所から通知が届くことになる。

おおざっぱにみて、1920年代は日本で働き、生活するために、まず日本語が不可欠とされた。多くの朝鮮人団体は夜学を組織するかたちで対応した。神戸市や尼崎市のように朝鮮人の多い地域では、自前で夜学を組織するのではなく、市に働きかけて市営の夜学が実現する場合もあった。逆に姫路市のように、夜学の開校は昼間の学校への不就学を奨励するようなものとして、朝鮮人団体による夜学援助要請を断った例もある。ただ、これは1929年時点のことで、日本の小学校への入学率がかなり高まったからともいえる。

朝鮮人児童の教育を日本人とは別の特別教育とするか、日本人との共学にするかは、父母にとって悩み

の種であった。前者では日本人と親しむ時期が遅れ、かといって後者では日本語がよくわからない児童は苦勞するといったぐあいである。この問題は1930年代に入っても継続した。宝塚のように、協和会が発足し協和教育が叫ばれる時期にあっても、篤志家による朝鮮人夜学が行われた例もある。

1930年代には日本生まれで朝鮮語を知らない児童が増加する。こうした児童のために朝鮮語を教える夜学が、とりわけ左翼系団体によって積極的に取り組まれる。しかし、同化のためにならないとして官憲の弾圧を受け、長続きしない例が多かった。ただ、融和団体でも夜学で朝鮮語を教えるところもあり、日本語だけを教えるか朝鮮語も教えるかは、団体の性格とともに団体を構成する父母の意識にも左右されたのではないかと思われる。

兵庫県の朝鮮人団体の夜学については、ほぼ新聞記事に依拠した。したがって断片的で、その教育内容はもとよりいつ開始され、いつ廃止されたのかわからないものがほとんどで、もどかしい限りである。

●第10回強制動員真相究明全国研究集会[強制連行・強制労働をどう伝えるか?]

日時 2017年3月25日(土)13:30~18:00/場所 あがたの森文化会館 講堂(長野県松本市)

参加費 一般1000円 学生500円

基調講演「強制連行問題と朝鮮植民地支配」 京都大学名誉教授 水野直樹/特別報告①「長野県へ来た農耕勤務隊~強制動員された朝鮮半島出身の「日本兵」 長野県強制労働調査ネットワーク共同世話人 原英章/特別報告②「アジア太平洋戦争期朝鮮人女性労働動員現況」 日帝強制動員平和研究会 研究委員 鄭惠瓊(チョンヘギョン)/第2部「強制連行をどう伝えるか?」/第3部「明治産業革命遺産と強制労働」/〈フィールドワーク〉日時:3月26日(日)9:00~13:00/集合:あがたの森保育園前→大型バスで移動、軍事工場建設跡+里山辺、中山地区周辺見学/準備物: 汚れても良い服装+軍手を準備
参加費:1500円 ※JR松本駅解散/〈連絡先・申込みのご案内〉/◎参加希望される方は「事前申込」をお願いします/◎集会・懇親会・フィールドワークいずれに参加するかを明記の上、Fax 075-641-6564 メール mitsunobu100@hotmail.com 携帯 090-8482-9725 (中田)まで。◎申込締切 3月18日(土)

●神戸学生青年センター・朝鮮史セミナー2017 著者が語るシリーズ<全3回>

*第2回 2月9日(木)午後7時~8時半

「われ、大統領を撃てり—在日韓国人青年・文世光と朴正熙狙撃事件—」(2016年10月、花伝社)
兵庫朝鮮関係研究会会員 高祐二(コ・ウイ)さん

第3回 2月23日(木)午後7時~8時半

「安重根と東洋平和論」(編著・李泰鎮+安重根ハルピン学会、監訳・勝村誠+安重根東洋平和論研究会)(2016年9月、日本評論社)
立命館政策科学部教員 勝村 誠さん

*会場・主催:神戸学生青年センター

<新刊案内>

飛田雄一『旅行作家な気分—コリア・中国から中央アジアへの旅—』(合同出版 2017.1 四六版 272頁 1620円) 購入希望者は、飛田 hida@ksyc.jp、FAX 078-821-5878 (学生センター) まで、お申込みください。代金送料とも1500円、郵便振替を同封してお送りします。本が到着後、ご送金ください。

<目次>

- 01 アジアの中の日本—韓国・北朝鮮・中国への旅から
 02 随想 済州島行
 03 延辺朝鮮族自治州への旅
 04 韓国への旅 友を訪ねて三千里
 05 韓国への旅 神戸電鉄敷設工事で犠牲となった朝鮮人労働者の遺族を訪ねて
 06 韓国原州に張壹淳先生の墓を訪ねて
 07 韓国お祭りツアー第1弾 江陵端午祭—「見るもの聞くもの、これぞ、お祭り」
 08 南京大虐殺の現場を訪ねる旅
 09 阪神教育闘争犠牲者の遺族を韓国を訪ねる
 10 韓国お祭りツアー第3弾 珍島霊登祭
 11 韓国「民草」ツアー第1弾 東学の道
 12 韓国「民草」ツアー第2弾 済州島「4・3+ハルラ山」
 13 南京再訪 そして731 & 安重根のハルビンへ
 14 朝鮮民主主義人民共和国ツアー
 15 「南京大虐殺への道」を訪ねて
 16 韓国お祭りツアー第4弾 安東国際反面劇フェスティバル—訪問の記
 17 張壹淳先生10周年忌の集いに原州を訪問して
 18 上海・南京・大連・旅順フィールドワーク—神戸・南京をむすぶ会
 19 第2回日韓歴史研究者共同学会 in 釜山
 20 済州島フィールドワーク—2006夏—日本軍の作った軍事施設跡を訪ねる
 21 済州島一周サイクリング（2007年）
 22 済州島一周サイクリング（2008年）
 23 中央アジアのコリアンを訪ねる旅—カザフスタン、ウズベキスタン
 24 延吉に尹東柱の生家などを訪ねて
 25 南京・海南島・上海への旅—神戸・南京をむすぶ会フィールドワーク2011夏
 26 ソウル漢江・サイクリング
 27 むくげの会 釜山・慶州合宿レポート
 28 またまた行ってきました 済州島一周サイクリング
 29 クルーズで釜山に行ってきました
 30 黄埔軍官学校と朝鮮人—神戸・南京をむすぶ会第19次訪中レポート
 31 済州島・李仲燮美術館
 32 麗水・順天を訪ねて

●青丘文庫研究会のご案内●

■第379回在日朝鮮人運動史研究会関西部会

2017年2月12（日）

①午後1時～3時

「猪飼野セツパラム文庫

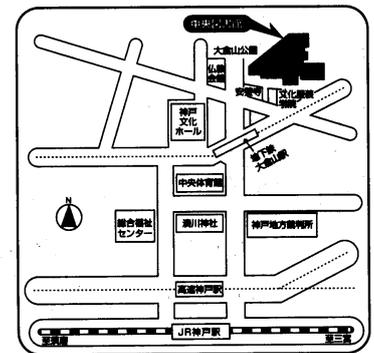
—1 軒丸ごと朝鮮韓国在日の図書・資料がいっぱい— 藤井幸之助

②午後3時～5時

「京都・辻紡績と朝鮮人労働者」 高野 昭雄

■朝鮮近現代史研究会はお休みです。

※会場 青丘文庫（神戸市立中央図書館内、TEL 078-371-3351、新館3階で身分を証明するものだして入館証を受け取り4階会議室にお越しください。）



<予告>日韓合同研究会

日時：2017年8月5日（土）～6日（日）、於：韓国・郡山

主催：在日朝鮮人運動史研究会関西部会、在日朝鮮人運動史研究会関東部会、韓国民族問題学会（ソウル）

【今後の研究会の予定】 来月以降の予定。3月12日（日）在日（呉永鎬）、近現代史（未定）、4月9日（日）在日（梶居佳宏）、近現代史（吉川絢子）、5月14日（日）在日（本岡拓哉）、近現代史（佐野通夫）、6月11日（日）在日（高木伸夫）、近現代史（松田利彦）、7月9日（日）在日（梁千賀子）、近現代史（藤永壮）、8月は休み。9月10日（日）在日（未定）、近現代史（山根俊郎）。研究会は毎月第2日曜日です。報告希望者は、飛田または水野まで連絡ください。

【月報の巻頭エッセイの予定】 3月号以降は、張允植、横山篤夫、松田利彦、西村寿美子、玄善允、川口祥子。よろしくお願ひします。締め切りは前月の10日です。